

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価 (3月29日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の学習意欲を向上させ、基礎的・基本的な知識の習得ができる教育課程の編成に取り組む。</p> <p>②学び直しや生徒が互いに学び合う学習活動を取り入れるなど、知識・技能の習得のみならず、それらを活用する力を育む魅力ある授業を展開する。</p>	<p>①習熟度別授業、TT授業、必要に応じた個別支援により、生徒の基礎学力向上と達成感ある学びを目指す。</p> <p>②「聴く力」を高める取組により、要点をまとめ、自分の考えを表現し深める力を育てる。</p>	<p>①生徒一人ひとりの学習状況を把握し、その結果を踏まえた授業改善を行う。</p> <p>①習熟度別学習の成果を踏まえ、他教科での導入も検討する。</p> <p>②集会や講演会などでの取組を継続するとともに、授業においても「聴く力」の育成を意識した場面を設定する。</p>	<p>①「生徒による授業評価」の結果が昨年より改善されたか。</p> <p>①習熟度別授業の成果が表れたか。他教科での検討が進んだか。</p> <p>②自分の考えをまとめて表現する場面がこれまで以上に設定できたか。</p>	<p>①各科目の比較は難しいが、できることが増えたと感じる生徒が多くなっている。</p> <p>①苦手な生徒も前向きに取り組んでいる。他教科での検討は進んでいない。</p> <p>②集会などの場面で、常にメモを取り、話をまとめる取組を行った。授業でも「聴く力」を意識した授業づくりを行った。</p>	<p>①積極的に授業に取り組む生徒が増えた。個々のニーズに合わせた課題の用意も検討したい。</p> <p>①数学と英語については1,2年次で習熟度別学習を継続し、基礎的な内容の定着を図りたい。</p> <p>②集会などでメモを取る取り組みを継続したい。授業においては、自分の考えを表現する場面をさらに増やしたい。</p>	<p>①一人ひとり習熟度が異なる生徒が多いなか丁寧な取り組みをしている。</p> <p>①1,2年次での習熟度別学習を継続して、基礎能力の向上に結び付けている。</p> <p>②自分の考えをまとめて表現する場面を増やして、生徒の基礎能力の向上や人間性の成長に結び付けている。</p>	<p>①外国につながるのある生徒が1学年に在籍しているため複数担当者で対応することができた。</p> <p>①1,2学年の数学・英語で習熟度別学習を取り入れ一人ひとりのニーズに合わせた授業を行うことができた。</p> <p>②「聴く力」の取組により、自分の意見を書き、まとめ、発表するといった、社会で必要なスキルを身に付けさせることができた。今後は課題の解決方法について考える機会や自分の考えを深める機会を設けたい。</p>	<p>①数学・英語において習熟度別学習を取り入れる。その成果を見極めながら、他教科への拡大も検討する。</p> <p>①他校での実践例も参考にしながら、生徒が集中して取り組むことのできる授業づくりをさらに推進する。</p> <p>①保護者や中学校教員などに積極的に授業を公開し、授業力向上に役立てる。</p> <p>②通常の授業においても、生徒が自ら課題を見つけ、自ら解決していくような自主性を育む授業づくりに取り組む。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①生徒一人ひとりの抱える課題を踏まえ生徒と向き合い、生徒から信頼される指導・支援を行う。</p> <p>②学校行事や部活動への積極的・主体的な参加を促進し、自己効力感を高め、他者尊重に基づく規範意識を醸成する。</p>	<p>①生徒一人ひとりの状況把握を適時に行い、情報共有に基づく支援を組織的に行う。</p> <p>②学校行事や部活動への参加を通じて、自他ともに尊重することや、対話による課題解決の経験を重ねる。</p>	<p>①生徒一人ひとりの状況把握のために定期的な情報共有を継続的に行う。また、必要に応じて支援検討委員会や外部機関との連携を通して支援の充実を図る。</p> <p>①共有した情報をもとに、学年を主体としつつ全職員が協力して生徒の指導に当たる。</p> <p>②学校行事や委員会活動等において、生徒会を中心とした主体的かつ協働的な取組を推進する。</p> <p>②部活動への積極的な関わり</p>	<p>①生徒一人ひとりの状況把握のために定期的な情報共有を行うことができたか。また、支援の充実のために外部との連携を行うことができたか。</p> <p>①全職員が各学年をサポートし、課題の解決に取り組めたか。</p> <p>②生徒が学校行事や部活動等に主体的かつ積極的に関われたか。また、取組を通して、自己効力感や他者を尊重する意識の向上を図</p>	<p>①定期的に月2回、生徒の情報共有会を行った。生徒の変化に学年だけでなく、教科担当も含めて対応し、問題行動の未然防止等の支援に的確に対処することができた。</p> <p>①外部機関との連携が必要な生徒に対し、校内の支援体制を整備し、連携した対応を適切に行うことができた。</p> <p>②学校行事や委員会活動等において、生徒会を中心に主体的かつ協働的に取組み、成果を上げた。</p> <p>②生徒が積極的に部活動に参加し、大会で成果を残した。</p> <p>②生徒は学校行事や部活動等に主体的かつ積極的に関わった結果、自己効力感や他者を尊重する意識の向上を図ることができた。</p>	<p>①一人ひとりの生徒と信頼関係を築き、生徒の言動の変化に注意して丁寧に指導することで問題行動の未然防止に務める。</p> <p>①生徒の家庭環境も的確に把握したうえで、引き続き校内及び外部との生徒支援体制を充実させ迅速な対応を行う。</p> <p>②本校に入学する生徒の社会性向上のため、今後も学校行事や委員会活動、部活動を通して、自己肯定感・自己有用感を醸成し、自己効力感を高め、他者を尊重する意識の向上を図る。</p>	<p>①生徒一人ひとりに対するきめ細かな指導・支援しているため、生徒たちの先生に対する言動や姿勢にも問題はなく、しっかり信頼関係が築けている。</p> <p>①家庭によっては食の機会や栄養面に課題がある生徒がいるので学食の役割は大きい。</p> <p>②生徒が学校生活を楽しんで、良い思い出作りができるように学校行事や部活動等も盛んに行われている。生徒自身が自発的にアイデアを持ち寄り、仲間と協力して作り上げる楽しさを持てるように、最低限の安全を確保しながらも自由な活動を認め、積極性を促している。</p> <p>②個々の事情に配慮して、行事に参加できない場合でも仲間と共感し合えるように、常に共同作業を意識できる役割の振り分けが成さ</p>	<p>①教員全員が一人ひとりの生徒のことを把握して、指導・支援することができた。</p> <p>①支援を必要とする生徒の情報を共有し、外部と連携した支援を行えた。</p> <p>②生徒が主体的に活動する学校行事を企画し、生徒に達成感を持たせることができた。指導を工夫してより良い行事を作り上げたい。</p>	<p>①課題解決に向け定期的な情報共有を継続するとともに、外部機関と連携した支援を進める。</p> <p>①共有した情報をもとに職員が協力して生徒の指導に当たる。</p> <p>②学校行事や委員会活動に生徒会が中心に生徒が主体的に取り組めるよう企画立案できるよう指導し、可能な限り多くの生徒が関わられるよう工夫する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価(3月29日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
				を通して、自己肯定感と協調性を育む。	ることができたか。			れている。		
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりの自己実現を目指した体系的なキャリア教育を推進する。	○進路希望の目標設定と計画実行につながるガイダンスとカウンセリングを組織的に行う。	○外部関係者を活用し、進路に関する説明会や会社見学などを計画的に実施する。 ○キャリア・パスポートを活用する。	○進路を決定して卒業する生徒の割合が増えたか。 ○キャリア・パスポートを活用することができたか。	○ほとんどの生徒が希望する進路へと進むことができた。(就職：7名、進学：1名、就労移行支援事業所：2名、その他：4名) ○キャリア・パスポートの作成を通して自己理解を深め、進路選択や就職活動の際に役立てた。	○外部関係者を活用した進路説明会を十分には開催できなかった。各進路行事を改善し、生徒のキャリア意識の向上を図りたい。 ○生徒が主体的に進路選択をできるよう、キャリア・パスポートのさらなる充実を図る。	○ほとんどの生徒が希望する進路へ進めたのは、素晴らしいことで評価に値する。 ○生徒一人ひとりがどのような境遇にあり、そのうえでどのような将来を描いているのか、入学後の早い段階でしっかり把握して、キャリア・パスポートを積極的に活用し、実現可能な進路へ導けている。	○ほとんどの生徒が主体的に進路選択をすることができ、生徒の希望する進路へとつなげることができた。 ○キャリア・パスポートを積極的に活用し、進路実現に向けた指導ができた。	○社会でより良く生きていくためのさまざまな力を在学中につけられるよう、キャリア・パスポートのさらなる充実を図る。 ○就職に対する意識付けを、入学後の早い段階から取り組んでいく。 ○企業の方から直接話を聞く機会を増やす。
4	地域等との協働	学校行事や地域貢献活動を通して、保護者や地域に信頼される学校づくりを推進する。	○可能な地域貢献活動や授業公開等を行うとともに、地域・外部資源の活用を推進する。	○PTAと共催の授業公開及び中学校教員対象の授業公開を行う。 ○学校紹介動画を作成し、中学校へ配付する。	○授業公開などにより、中学校や保護者との連携が深まったか。 ○生徒の教育活動を発信することができたか。	○コロナ禍のため校内外のPTA活動が十分にできなかった。 ○生徒が追浜駅前広場にプランターを設置し、継続的にメンテナンスを行うことで、地域との連携を深め、貢献する活動を行うことができた。 ○学校紹介動画により、生徒の活動を発信することができた。	○PTA活動の役員不足が課題であるが、役員の負担を軽減し活動を継続する。 ○校内外の行事や活動の再開に向け、保護者や地域の方々との連携や外部資源の活用を進め、地域連携を強化する。 ○学校紹介動画は生徒からのメッセージをさらに増やしたい。	○PTAの役員が少なくともしっかり機能するように仕組みや役割を変えていけばよい。 ○駅前のプランター栽培や、赤い羽根共同募金などの活動を通じて、常に社会の一員であるという自覚を持ち、学校全体が地域に歓迎される存在となっている。積極的な社会参加ができている。 ○入学希望の生徒には学校紹介動画があることを案内しており、参考になっている。	○PTA活動も積極的に再開することができた。今後は十分に活動できるようにしたい。 ○地域貢献活動への関わりにおいては地域の方々のご協力のもと、コロナ前の活動を行うことができた。プランター設置後の水遣りなども全校の取組として行うことができた。 ○学校紹介動画を作成し、中学校へ配付するとともに、ホームページにも掲載した。	○追浜駅前の活動については評価をいただいております。今後はコロナ前に実施していた清掃活動を計画的に行いたい。 ○学校紹介動画の内容の充実と更新を今後も行いたい。
5	学校管理 学校運営	①生徒の安全・安心が確保された、信頼される学校づくりを進める。 ②ワーク・ライフ・バランスを中心とした働き方改革を実現し、事故・不祥事のない、信頼される学校づくりを進める。	①生徒・保護者への丁寧な対応、事故防止の徹底、適切な情報提供により、安心安全な学校づくりをする。	①一人ひとりの生徒と向き合う時間を確保し、情報共有を密にする。 ②不祥事防止研修会等を通じ、職員全体が高い意識を持ち、職員間のコミュニケーションを図り事故・不祥事の未然防止に努める。	①生徒や保護者に情報を正確に伝え、今後の方向性を明示できたか。 ②研修会等を通じて職員の意識を高めることができたか。	①巨大地震・津波や大規模災害から自らの判断で自らの安全を確保できるようになるために、防災訓練を2回実施した。 ①防災備蓄品の使用期限と個数の確認を行い、次年度の購入計画を検討した。 ②年間を通じて、毎月のテーマに沿って不祥事研修を教員が順番に担当し意識を高めることができた。	①巨大地震・津波や大規模災害時における、避難場所の確認、対応の仕方等について、防災訓練等を通して意識の醸成を図る。 ①防災備蓄品の管理を全日制と連絡を取り確実にを行う。 ②教職員一人ひとりが自分自身の問題と捉え、不祥事等を未然に防止する声掛けを行う。	①巨大地震・津波や大規模災害時における訓練を2回できて良かった。校内の連携、チームワークを感じる。 ①発災時に適切な対応が図れるよう、今後も訓練の仕方をより実践に即したものするなど工夫をしてほしい。 ②教員はやりがいはあっても心身ともに大変な仕事ですので、先生方の心のケアもしっかりしてほしい。	①災害の状況別に対応方法を整理し、生徒に分かりやすく伝えることができた。災害発生時に適切な避難行動ができるかが課題である。 ②毎月の不祥事防止会議でその時期に関わる事例について共有し、各自検証を行った。事前の研修を通して事故防止への意識を高めることができた。	①防災訓練を計画的に行うとともに、訓練内容を工夫して生徒の防災意識を高める。 ②不祥事防止研修会の定期的開催による教職員の意識啓発活動を継続する。